

2011 年

3 月 29 日（火曜日） 豊穰のおまつり - フェスタ「飛天」実行委員会に寄せて -

毎年、峰山町、京丹後市においてフェスタ「飛天」のお祭りが開催され、昨年で 19 回を数えた。市内外から多くの方々に来場をいただき、夏のひとときを満喫していただいています。

このお祭り、本市に伝わる七夕伝説をモチーフにしているものですが、本市の七夕伝説は、日本三大羽衣天女伝説の一つとされる本市の羽衣天女伝説に重なるもので、しかも、「丹後国風土記」逸文によれば、この天女様は、いわゆる豊宇賀能売神様とようけびめであるとされています。また、豊宇賀能売神様は、豊受大神宮、即ち、伊勢神宮外宮に奉祀されます豊受大神様として知られている神様であると伝えられています（フリー百科事典（ウィキペディア）による）。

このことから、本市に伝わる七夕伝説をモチーフにする「飛天」のお祭りとは、五穀豊穰の豊かさにつながりをいただく、そんな尊い伝説にまつわるお祭りであり、その実は、豊かさに感謝し豊かさを祈らせていただくお祭りでもあるように思います。

同じくフリー百科事典（ウィキペディア）によれば、「比沼麻奈為神社のある京丹後市峰山町には、豊受大神が丹波で稲作をはじめられた半月形の月の輪田、粳種をつけたせいすいど清水戸せいすいどがある。これがこの地が田庭と呼ばれるようになった起源とされ、田場、丹

波へと変遷し、丹波、但馬の地名の起源であるという説がある。なお、鳥取市ぼうがき卯垣ぼうがきにも古苗代、大苗代がかつてあり、そこには半月形の苗代があつた。これは稲葉大明神が、稲作を伝授されたことが起源で、近くの稲葉神社はこの稲葉大明神を祀るが、おそらく丹後の豊受大神が、当地に降臨されたことを示すものと考えられえ。つまり、稲葉（稲場・因幡）の地名由来は豊受大神と関連するものと言え。」「月の輪田 ～ 付

近の久次嶽中腹には大神の社があり、天の真名井の跡とされる穂井ほいのだんの段がある。また、

おおみあえいし大饗石おおみあえいしと呼ばれる直方体のイワクラが残っており、これが神社の縁起とも言われている。天橋立の真名井神社は久次嶽山頂、大饗石、比沼麻奈為神社境内、大宮売神社を結ぶ一直線上に位置しており、関連性は濃厚であると考えられる。」とされています。

なお、昨年は、山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定をされた喜びの節目をいただきましたが、このジオパークは地質や風土に関連するものであると同時に、地域的

には因幡（鳥取西部）から丹後までのつながりをいただくものでありますが、稲作の起源にまつわる上述の伝説に重なるようで、不思議なご縁を感じます。

本地としてこのようなとても由緒深い伝説をいただいていることを改めて尊く受け止め、「飛天」のお祭りのモチーフとして戴いている意味をさらに深く掘り下げながら、本地の歴史の底知れない尊さと豊かさに市民の皆で思いを寄せて、豊穰を感謝し祈る心ですますあふれるお祭りとしていきたい。